

第196号

令和3年11月1日発行

発行所

一般社団法人 埼玉県電業協会

発行人

岡村一巳

編集人

広報委員会

(委員長 矢嶋博和)

事務局

〒336-0031 さいたま市南区鹿手袋4-1-7(建産連会館内)

http://www.saidenkyo.jp/ E-Mail kyokai@saidenkyo.jp

TEL 048(864)0385

編集 日本工業経済新聞社(埼玉建設新聞)

彩の耀

さいのかがやき

一般社団法人 埼玉県電業協会

耀け埼玉電協!

～2030年に向けて持続可能な開発目標～



気象情報の活用促す 災害復旧対策講習会開く

埼玉建産連研修センターで9月8日、令和3年度の災害復旧対策講習会を開催しました。対面とオンラインによるハイブリッド形式で行い、約60人が参加しました。

冒頭、岡村会長が「ことしも九州、四国、中国地方で大雨が降り、また熱海市では大規模な土石流が発生してしまいました。災害がないことに越したことはありませんが、常日頃から、どのように減災させるかを考える必要があります」とし、ハードとソフト両面からの対策が不可欠との認識を示しました。



「埼玉県の災害対策について」説明

その後、県災害対策課災害対策担当主幹の照井英夫氏が「埼玉県の災害対策について」を、続けて気象庁熊谷地方気象台気象情報官の入福敏行氏が「気象災害と気象情報の活用」をテーマにそれぞれ講習を進め、このうち、入福氏は遠隔地からWebを介して講義を行いました。

入福氏は令和元年10月、関東・東北地方を中心に甚大な被害が発生した東日本台風の発生メカニズムを説明。また、局地的大雨と集中豪雨との違い、ことし6月より開始された線状降水帯に関する情報提供などを解説しました。県内における大雨の特徴についても触れ「夏季は雷雨が大半を占め、東から南東の風で大雨になる可能性が高い」と分析。入福氏は気象庁から出される情報を早期にキャッチし、早めの避難行動が大切と呼び掛け「事前にハザードマップや避難ルートを確認しておくことが被災リスクを軽減させます」と強調しました。

最後に、事故防止対策委員会の山本和利委員長が事業継続計画(BCP)の簡易様式「彩の国しごと継続計画」の策定を出席者へ促しました。



熊谷地方気象台よりWebを介しての講義

マナーを再確認 新入社員フォローアップ研修



7月13日と14日の2日間、埼玉建産連研修センターで新入社員フォローアップ研修を開きました。45人が出席し、電話応対などマナーの基本を再確認したほか、電気設備に関する知識を深めました。

人材育成委員会の佐野雄一郎委員長が「われわれは、相手がいて仕事をさせてもらっています。そのことを十分理解し、相手が不快にならないような服装、言動をしなければなりません。2日間しっかり講義を聞いて、さまざまなことを学んでください」と述べ、2日間にわたる有意義な研修に期待を寄せました。

初日の講師は、人材教育やイメージコンサルティングを手掛けるSUGIコーポレイション代表取締役の杉本直鴻氏。杉本氏は社会人としての立場や役割、ビジネスマナーを解説したほか、良好なコミュニケーションを築くポイントも伝授。「慌てず、できることから1つ1つ取り組んでいくことが大事です」と呼び掛けました。

2日目は電気技術講習としてメーカー各社を講師に招き、配電盤や配線材、照明器具の使い方、選定方法などを学びました。



受講者と積極的に会話する講師の杉本氏(中)

見開き(4・5面)に
埼玉県150周年記念特別企画掲載



「彩の耀」に寄せて



和光市長
柴崎 光子

「彩の耀」第196号のご発行を心よりお喜び申し上げます。日頃より、一般社団法人埼玉県電業協会の皆さまには、電気設備産業の発展にご尽力いただくとともに、地域生活の安全と安心、社会福祉の向上にご貢献を賜り、深く感謝申し上げます。

和光市は、埼玉県の南東部にあり、西側に朝霞市、北側に荒川を挟んで戸田市と境を接しています。また、南側は、東京都と隣接し、市域は都心から15～20km圏内に位置します。武蔵野の面影を残した豊かな自然に恵まれており、県営和光樹林公園の広大な緑、荒川の雄大な流れ、市内各所で湧き水や緑豊かな斜面林があり、都市生活に彩りを加え、市民の心をうるおしています。古くから交通の要衝であった和光市。江戸時代には、五街道に準ずる地位を与えられていた川越街道に白子宿がおかれ、宿場町として賑わいました。現在では、東武東上線や東京メトロ有楽町線・副都心線、東京外かく環状道路などの首都圏の鉄道・道路交通の幹線が市内を縦横に走り、交通至便の住宅都市として急速に開発が進んでいます。豊かな自然環境と便利な都市環境をあわせ持つまちとして、発展しています。

本年4月には、和光市「初」となる官民連携のモデル事業として推進してきた広沢複合施設（愛称、『わびあ』）に新保健センター、児童発達支援センター、認定こども園が先行オープンしました。また、12月には、新たな児童センター、市民プール及び民間温浴施設などがオープンすることにより、地域のにぎわいを創出します。

現在、和光市は若い世代の流入が続き人口は増加傾向が続いており、現在は子ども子育て環境の整備が急務となっております。しかしながら、近い将来、高齢化社会は確実に到来します。これまで取り組んでまいりました和光版ネウボラや地域包括ケアなどの政策に加え、新たな子ども子育て政策や高齢者福祉政策の充実が必要になると考えています。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の終息が見えない中、市の行財政運営にも大きな影響を受けるものと考えています。

一方、和光市は、首都東京に隣接する地理的優位性や交通の利便性といった未来に向けた大きなポテンシャルを秘めております。このようなポテンシャルを活かし、10年、20年先の高齢化社会を見込み、和光北インターチェンジ周辺への産業集積や、国道254号バイパスの整備、自動運転技術を核としたMaas、和光市駅北口の再開発など、魅力と安心安全に加え、安定した行財政経営を可能とする「エンジン」を備えたまちづくりを着実に進めます。

誰もが輝ける和光市をつくっていくために、一歩前への精神で、失敗を恐れることなく果敢に市政運営をすすめてまいりたいと思います。皆様の一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人埼玉県電業協会の益々のご発展と会員皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げましてご挨拶といたします。

企業対策セミナー

第2回セミナー ウェビナー開催

主 要 事 業

17 パートナースHIPで
目標を達成しよう

8月4日、令和3年度の第2回企業対策セミナーを埼玉県空調衛生設備協会と合同で、緊急事態宣言下オンラインでの開催としました。当協会にて設定を行い、66名の方がネットで参加し、特例監理技術者の配置や総合評価方式に関する資料作成のポイント、入札契約・円滑な施工確保などについて学びました。

第1部では「特例監理技術者の配置について」を演題に、県建設管理課の関口智則主幹が講義を行いました。県の動向に関して「県土整備部発注工事については、ことしの2月から一定条件下で特例監理技術者の配置を認めており、さらに7月からは総務部、都市整備部、下水道局、企業局の発注工事でも配置を認めることとしました」と説明しました。続いて、県総合技術センターの出浦雄太主任が、総合評価方式にかかる技術資料の作成ポイントを解説しました。評価項目ごとの資料作成や技術提案型における提案書の書き方などを伝えました。

第2部では、関東地方整備局営繕部技術・評価課の杉田篤司課長と川嶋亮課長補佐が「入札契約及び円滑な施工確保等について」をテーマに講義を進めました。営繕工事における働き方改革を紹介し、適正な工期設定や週休2日制の推進、ICTの積極的な活用などを説明しました。円滑な施工確保に向けた取り組みとして、適正な参加要件と工期設定、工事監理の効率化、入札時における負担軽減、情報提供の工夫などを取り上げました。



機材を配置し、会議室より配信

第3回セミナー 「BIMを学ぶ」

主 要 事 業

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

9月16日、第3回企業対策セミナーを埼玉建産連研修センターで開きました。当日はハイブリッド形式で行われ、会場参加が20名、オンライン参加が27名の計47名が熱心に耳を傾けました。講師は埼玉県設備設計事務所協会の金子和巳会長へお願いし、BIMをテーマに講義を進めました。

冒頭のあいさつで、岡村会長は「元請けとしても、これからBIMの導入は不可欠となります。（BIMによって）仕事のあり方が今後どう変わっていくのかを考える良い機会です」と話し、セミナーがBIM活用の推進につながることを期待しました。

登壇した金子会長はBIMのメリットや導入に向けた課題、国土交通省が建設関連13団体へ実施したアンケート結果などを紹介。BIMは業界全体に与えるインパクトが大きく「取り組まない企業は、いずれ淘汰されることとなります」と警鐘を鳴らしました。BIMの導入にはソフトや測機材など初期投資のほか、これらを扱う人材の育成といった面も高いハードルとなっていますが、金子氏は「負担は当然生じますが、先を見据え、今から積極的な取り組みを

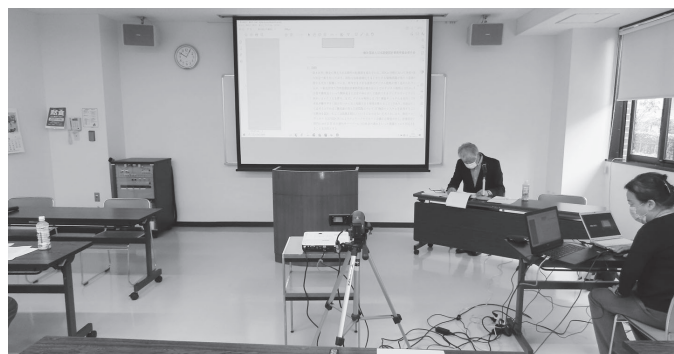
講じてください」と呼び掛け、人材確保の観点からも「BIMを導入することで、コンピューターやデジタルに抵抗のない若者の入職促進へとつながり、働き方改革の推進にも大きく寄与します」との認識を示しました。



岡村会長



講師の金子会長



スクリーン投影し、会場内とWeb配信で画面を共有

埼玉県150周年記念特別企画

埼玉県が11月14日に県政発足150周年を迎えることとなりました。当協会もこれまでさまざまな形で埼玉県と連携し、県民の安心安全の確保に尽力してまいりました。当協会と埼玉県は「車の両輪」のような関係であり、今後も引き続き、県施策のさらなる推進に協力していきます。

今後も「車の両輪」で県施策支える



会長 岡村一巳

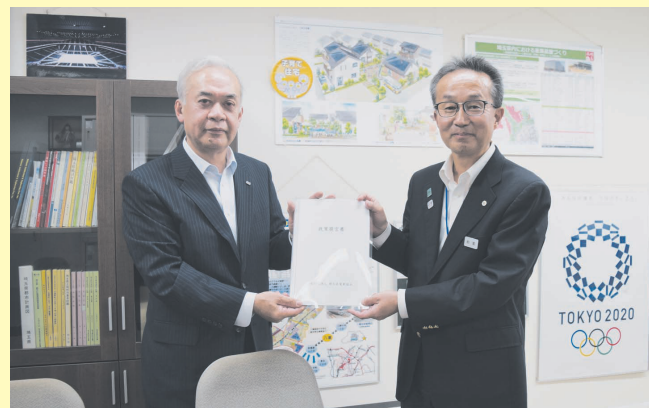
埼玉県県政150周年 記念事業パートナーとして

埼玉県“県政発足150年”を迎えられ、誠におめでとうございます。埼玉県電業協会もこの記念事業パートナーとして、埼玉県そして埼玉県民を応援しようとするこの特別企画を組みました。今年は渋沢栄一氏の存在と共に埼玉県が注目され、何かと話題にのぼっています。県民739万人が幸せを感じるそのような思いをみんなで分かちあいたいのです。

当協会は、任意団体の時期も含め61年目を迎えます。その間、県政と常に関わりをもって事業を展開してまいりました。埼玉県の発展と共に、足並みをそろえ時には相互に助け合いながら歩んでおります。協会発足当時は豊かな経済に向けて馬力をかけて疾走していたそのような時代であったと思います。その力強さのまま、これから先も県政と共に日々業界団体としての役割を果たすために邁進し、県政に協力して参ります。



2005年【県と防災協定を締結】



2019年【県の施策へ反映させるための政策提言書を手渡した】



2015年【協会設立40周年を迎えた際には、県幹部と座談会を実施】



2014年～【11月の県民の日の
県庁オープンデーにはブースを出展】



2010年【工業高校の先生方をお招きし、
危機管理防災センターで電気工事技術研修を開催】



埼玉県知事 大野 元裕



「彩の耀」第196号の御発行を心からお喜び申し上げます。また、岡村一巳会長をはじめ一般社団法人埼玉県電業協会の皆様には、日頃から電気設備産業の発展だけではなく、地域生活の安全と安心、社会福祉の向上に御尽力と御貢献いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

本県では新型コロナウイルス感染症に立ち向かうため、全国に先んじて新しい生活様式を提唱するなど、感染防止と経済回復の両立に取り組んでまいりました。皆様には感染防止対策に様々な御協力を賜りましたこと、改めてお礼申し上げます。

さて、1871年11月14日、廃藩置県により埼玉県が誕生し、今年で150周年を迎えます。この大きな節目の年は、改めて埼玉を知り、見つめ直し、その魅力を県内外へ発信し未来へとつないでいく絶好の機会だと捉えております。そこで、令和2年度から「埼玉150周年記念事業」として、埼玉県のこれまでの歩みの紹介をはじめ、150周年を記念した特別なイベントの開催や数々のコラボ商品の開発販売、更には埼玉県の未来をテーマとした作文・絵画コンクールの実施など、様々な形で祝賀感を醸成しています。

この150周年記念事業は、埼玉県を盛り上げようと、共に活動をいただいている企業・団体、市町村の皆様の御協力あってこそこの事業です。

貴協会におかれましても、本広報誌での埼玉150周年の周知に御協力を賜り深く感謝申し上げます。また、埼玉150周年記念の講演会を予定されているとのことで、大変楽しみにしています。

埼玉150周年記念事業パートナーに御登録いただいた皆様は令和3年9月末時点で211者に上ります。パートナーの皆様の取組により、カラフルなパッケージのお菓子やお酒、ジュース、県産食材を使ったお弁当といった記念商品が続々と



2001年【浦和市、大宮市、与野市が合併し、県内初の100万都市「さいたま市」が誕生】

誕生しています。さらに、県内スポットを図柄にした色鮮やかな記念切手や県のマスコット「コバトン」を車体にあしらったラッピングカーも登場しました。

埼玉150周年記念事業により生まれた商品、イベントは特設WEBサイト「Colorful」で紹介しています。このサイトでは他にも埼玉県の歴史や県が誇る三偉人の紹介、これまでに寄せられた150周年へのメッセージなどの特集ページを設けています。是非、御覧いただければ幸いです。

さて、11月14日（県民の日）には、いよいよ記念式典とイベントを開催します。

記念式典では、「埼玉未来予想コンクール」の入賞者表彰と作品発表を行います。20年後、30年後の社会を担う小中学生が、埼玉の魅力再発見と未来の埼玉像をテーマに、作文や絵画などを通じて自由にそして夢のある形で表現していただきました。埼玉の魅力をしっかりと未来へつないでいきます。

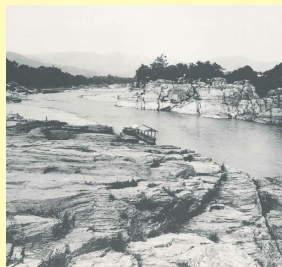
イベントでは、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会でメダリストとなられた県ゆかりの選手によるトークイベントや、著名人と一緒に150周年をお祝いするコンテンツも用意しています。イベントの参加申込みは終了していますが、オンライン配信も行いますので、御自宅からは是非埼玉150周年記念イベントをお楽しみください。

埼玉150周年を契機に、埼玉に関わる全ての方々と心をつなげて、埼玉のすばらしさを全国へ、そして未来へと伝えていきたいと考えています。

結びに貴協会のますますの御発展と、会員の皆様の御健勝と更なる御活躍を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。



1890年【旧浦和町（現さいたま市）を県庁所在地とする勅令が公布※1】



1924年【長瀬渓谷が「長瀬」として国の名勝及び天然記念物に指定※1】



1946年【蕨町（現蕨市）が全国に先駆けて成人式（成年式）を実施※2】



1971年【関越自動車道（東京～川越間）が開通※3】

※1 埼玉県立図書館提供
※2 蕨市提供
※3 新座市提供

受験準備講習会

9 職業と技術革新の
基盤をつくらう

1級電気工事施工管理技士取得へ 二次検定準備講座開く



講師の小泉氏

9月3日、1級電気工事施工管理技術検定の第二次検定受験準備講座を埼玉建産連研修センターで開きました。講師はケイ・教育企画サポート事務所主宰の小泉一夫氏。模擬試験で解答能力を養い、きめ細かな個人別学習指導を行いました。講座は9月3日、10日、24日、10月1日の計4日間実施しました。

初日のあいさつで、小泉氏は「過去問をしっかりと精査し、ポイントを丁寧に解説します。第二次検定のほとんどが記述式で大変ですが、全力で皆さんの合格

のお手伝いをさせていただきます」と出席者20人へのサポートを約束しました。

4日間にわたって毎回模擬試験を行い、解答の添削、個人別学習指導などを行いました。模擬試験では施工経験記述、法令、用語の定義などについて過去に出題された問題を参考に試験問題の傾向を探り、受講者各々に合わせた対策を講じました。



講師による個別指導

第一種電気工事士目指せ 筆記準備講座に22人出席

第一種電気工事士の筆記試験受験準備講座を開きました。講師はケイ・教育企画サポート事務所主宰の小泉一夫氏。講座は8月23日、31日、9月7日、14日、21日の5日間コースで、いずれも埼玉建産連研修センターで行いました。22人の参加者はカリキュラムに沿った講義を聞き、過去に出題された試験問題に取り組むなどし、筆記試験を突破するための指導を受けました。

小泉氏は「合格を勝ち取るためには講座の5日間だけでは駄目です。仕事の合間を縫い、勉強する時間を確保してください」と呼び掛けました。

5日間とも午前中に講義を実施。高圧受電設備や配

線図・制御回路、電気機器、電気工事の施工方法、自家用電気工作物の検査方法、関係法令、発電・送電・変電施設の構造と特性、電気の基礎理論などの講義を受け、午後は過去問を活用した模擬試験を行い、解答の導き方を学びました。



解答の導き方を習得

特別教育

職長・安全衛生責任者能力向上教育 11人が重要な役割を再認識

10月6日、埼玉建産連研修センターで職長・安全衛生責任者能力向上教育を実施しました。講師には厚生労働省安全衛生トレーナーで、ケイ・教育企画サポート事務所主宰の小泉一夫氏を招聘。具体的な事例を挙げながら、11人の受講者へ責任者としての重要な役割を再認識させるとともに、現場における効果的な指導方法などを伝授しました。

当日は労働災害の仕組みと発生後の各種対応、作業方法の決定と労働者の配置、作業設備と作業場所の保守管理の方法を説明。続けて、異常時などにおける措置や安全施工サイクルと安全衛生活動、責任者の役割

を解説しました。また効果的な指導方法、さらには危険性、有害性などの調査方法、設備や作業などの具体的な改善方法も紹介したほか、事故後の処理方法に関する災害事例研究を4つのグループに分けて行いました。



現場における効果的な指導法学ぶ

低圧電気取扱者特別教育 安全確保へ徹底指導

低圧電気取扱者特別教育を10月13日と14日の2日間、埼玉建産連研修センターで行いました。講師は厚生労働省安全衛生トレーナーで、ケイ・教育企画サポート事務所主宰の小泉一夫氏。労働安全衛生法に基づくカリキュラムに沿って基礎知識や関係法令、絶縁保護方法、休電計画書作成などについて9人が指導を受けました。

初日は低圧の電気設備・安全作業用具に関する基礎知識を講義。とりわけ危険性について学び、低圧活線

作業と活線近接作業の方法などを学びました。

2日目は関係法令の解説を聞き、実技教育として低圧充電回路の防護や作業者の絶縁保護の方法、休電計画書・作業手順書の作成、救命救急法などを学びました。



9名が参加

「コロナのバカヤロー」

Voice

株式会社北産電設 代表取締役 金子 圭

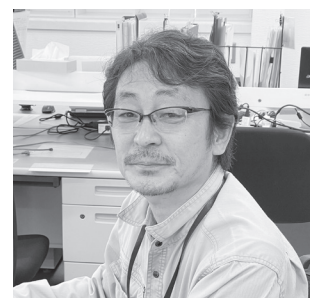
TOKYO2020オリンピック・パラリンピックでは全世界のアスリートの熱い戦いに一喜一憂し、日本のアスリートのメダルラッシュにも、心躍らせ感動させられました。

自国開催の人生最後のオリンピックで、奇跡的に女子バスケットボール決勝のチケットを入手できました。娘が小・中・高校とバスケットボール部に所属していたこともあり、一番ほしかったチケットでした。日本の女子バスケが決勝に進出してくるのは何か神風が吹かない限りないと思っていました。しかし、始まってみるとあれよあれよと言う間に日本女子バスケチームがオリンピック6連覇中のアメリカとの決勝に進むという快挙を成し遂げ、戦ってみればやはりアメリカは強かったという試合でしたが、日本女子バスケチームは史上初のメダルを獲得して準優勝という結果でした。昔、娘の所属していたチームの監督(ミニバス全国大会出場監督)に男子バスケではなくて女子バスケを指導している理由を聞いたときに「男子は一人のスーパープレイヤーで強いチームになるけど、女子はチームワーク・戦術・練習量・

周り(当時は親)のサポートといろいろな要素がかみ合わない強いチームは作れないから指導していて楽しいしやりがいがあるんです」とおっしゃっていたことを思い出し、日本女子バスケチームの準優勝を日本人として誇らしい気持ちになりました。

さて、SDGsの取り組みで「女性のキャリアアップを図り、だれもが活躍できる業界を目指します」を考えていく上で、監督の言葉と日本女子バスケチームを躍進させたチーム作りがヒントになるかもしれないと考えてます。

最後に、コロナの第5波の影響で無観客開催となり、女子バスケ決勝の日本VS米国のプレミアチケットが紙くずとなってしまったことが残念でなりません。「コロナのバカヤロー!」で締めくくりたいと思います。



寄稿者 金子氏

技能講習



具体的対処法を伝授

酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者

9月9日から3日間にわたり、酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習を埼玉建産連研修センターで開催しました。講習は9月9日、10日、24日に行われ、31人が出席しました。

初日から2日間は学科講習で、1日目は酸素欠乏・硫化水素の発生原因や防止措置に関する知識などについて学びました。2日目は酸素欠乏症・硫化水素中毒と救急蘇生に関し、事故が起きた場合の退避や手当て、一次救命措置の手順を確認したほか、保護具に関しても各種呼吸器の正しい選定、装着前の点検と装着上の注意点などを学びました。

最終日は4班に分かれた実技教育で、酸素・硫化水素濃度の測定方法、救命救急法、救急蘇生の方法などについて指導を受けました。



実技:救急蘇生の方法



実技:測定方法

13人が安全管理学ぶ

足場の組立て等作業主任者

7月29日、30日の2日間、足場の組み立て等作業主任者技能講習を埼玉建産連研修センターで実施しました。作業主任者が知らなければいけない統計をもとに注意を促し、講じるべき対策を指導。13人が安全管理と作業教育の重要性を再認識しました。

1日目は作業方法に関する知識として、まず災害発生状況を確認するとともに、災害事例から教訓を得ました。また作業主任者の役割、足場の種類、作業計画と安全対策、各種足場の組み立て・解体などについて指導を受けました。

2日目は服装・保護具、使用工具、重機の取り扱い、玉掛けおよび合図などを学び、作業者に対する教育・指導として、具体的な手順書の作り方を学びました。



作業方法に関する知識を深めた

協会のうごき

- 8月**
- 4日 第2回企業対策セミナー
 - 18日 第3回人材育成委員会
 - 19日 第2回正副会長会議
- 9月**
- 8日 第3回事故防止対策委員会
災害復旧対策講習会
 - 15日 第2回広報委員会
 - 16日 第4回企業対策委員会

- 16日 第3回企業対策セミナー
 - 21日 第6回理事会
- 10月**
- 6日 職長・安全衛生責任者能力向上教育

- 19日 県設備課との意見交換会
第7回理事会
- 20日 第4回人材育成委員会
- 30・31日 登録電気工事基幹技能者認定講習

埼玉県認定職業訓練事業	
第一種電気工事士試験(筆記)受験準備講習会	8月23、31日・9月7、14、21日
1級電気工事施工管理技術検定試験(二次)受験準備講習会	9月3、10、24日・10月1日
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習	9月9、10、24日
低圧電気取扱者特別教育	10月13、14日

(一社) 埼玉県電業協会会員

支部長◎ 副支部長○

さいたま支部 (14社)

旭電気工業(株)(大宮区)
浦和電気工事(株)(南区)
○大塚電設(株)(浦和区)
(株)岡村電機(緑区)
埼玉田中電気(株)(南区)
埼玉電設(株)(中央区)
栄電業(株)(上尾市)

新生電気工事(株)(見沼区)
◎(株)積田電業社(浦和区)
中村電設工業(株)(岩槻区)
(株)万代電気工業(桜区)
(株)丸電(西区)
瑞穂電設(株)(北区)
○(株)八洲電業社(北区)

東部支部 (13社)

(株)内田電気商会(久喜市)
(株)大久保電気(越谷市)

倉持電気(株)(三郷市)
(株)三進電気工事(上尾市)
島村電業(株)(上尾市)
(株)新電気(三郷市)
◎(株)大広電気(八潮市)
太洋電設工業(株)(越谷市)
(株)高岡電気工業(松伏町)
ニチデン技術サービス(株)(北本市)
○深井電気(株)(北本市)
富士電気工業(株)(北本市)
(株)弓本電設社(白岡市)

西部支部 (18社)

○飯島電器工事(株)(川越市)
◎(株)市之瀬電設(志木市)
(株)大庭電気商会(川越市)
(株)岡島電気商会(川越市)
(株)おぎでん(川越市)
熊田電気工事(株)(狭山市)
(株)三共電気商会(和光市)
(株)関根電気商会(川越市)
相馬電業(株)(和光市)
(株)電成社(川越市)
(株)中村電気(新座市)
○橋電(株)(所沢市)
(株)橋本電工(所沢市)
フジヤ電気工事(株)(川越市)
(株)北産電設(所沢市)
(株)まつもと電機(和光市)
(株)明電社(川越市)
(株)ヤマト・イズミテクノス(ふじみ野市)

南部支部 (7社)

◎内山電設(株)(川口市)
(株)奥富電気工事(川口市)

(株)佐久間電設(川口市)
佐野電機(株)(川口市)
三位電気(株)(川口市) 高山
電設工業(株)(川口市)
○那須電機工業(株)(川口市)

北部支部 (16社)

イーテクノス(株)(熊谷市)
○(株)イトラスト埼玉(行田市)
(株)内村電気(深谷市)
(株)エコー(深谷市)
共和電機(株)(秩父市)
熊谷電機(株)(熊谷市)
(株)栗原電機(深谷市)
霜田電気(株)(皆野町)
中外電気工業(株)(深谷市)
(株)東電工業社(熊谷市)
(株)長井電機(熊谷市)
(株)沼尻電気工事(深谷市)
(株)早川電工(鴻巣市)
松山電設(株)(東松山市)
ムサン電機工業(株)(行田市)
◎(株)躍進電気(深谷市)



建築設備3団体で県へ分離・分割発注を要望

9月2日、当協会と埼玉県空調衛生設備協会、埼玉県設備設計事務所協会の建築設備3団体合同で「直接発注(分離発注)に関する要望書」を大野元裕県知事や木下高志県議会議長、公営企業管理者、県土整備部長、都市整備部長、県立病院機構理事長などへ提出しました。地元の設備関連企業が経営を安定させ、将来を担う若手技術者をじっくり育てることができるよう、分離・分割による工事発注と設計委託を求めました。



大野知事(右から2人目)へ要望書を提出

